

光ミュージアム所蔵
美を競う 肉筆浮世絵の世界

2019年4月27日(土) — 6月9日(日)

肉筆画は量産される錦絵の版画とは異なり、浮世絵師が絹本や紙本に直接に描く一点ものです。華麗な衣裳の文様まで精緻に描かれた、肉筆ならではの濃密で優美な浮世絵の世界を楽しむことができます。本展では国内でも有数の肉筆浮世絵コレクションを擁する岐阜県高山市の光ミュージアムの珠玉の名品から美人画を中心に約110点を厳選しご紹介します。



深斎英泉「立ち美人」部分
光ミュージアム蔵

横山華山展

2019年7月2日(火) — 8月17日(土)

近世後期の京都で活躍した画人、横山華山。かつては都を代表する絵師の一人として知られ、山水、花鳥、人物など様々な主題で印象的な作品を残した人物です。彼の風俗画や名所絵は特に名高く、京の風景や人々を超絶技巧で描き出しました。本展は、今や知られざる人となった華山の画業を振り返る、初めての大規模展覧会です。華山が師と仰いだ、曾我蕭白の作品なども併せてご覧頂きながら、京に生き、愛された華山芸術の粋をご紹介します。



横山華山 祇園祭礼図巻 部分 天保年間 個人蔵

ICOM 京都大会開催記念 東京富士美術館所蔵
百花繚乱 ニッポン×ビジュツ展

2019年8月25日(日) — 9月29日(日)

本展は、2019年に開催されるICOM京都大会を記念して、東京富士美術館が所蔵する3万点のコレクションの中から、日本美術の名品を展観するものです。多彩な作品群を通して、日本の歴史と文化の多元性について理解していただけるとともに、日本美術の豊かさに触れる絶好の機会となるでしょう。



高橋北斎 富嶽三十六景(神奈川沖浪裏) 東京富士美術館蔵
©東京富士美術館イメージアーク/DNPpartcom

みんなのミュシャ
ミュシャからマンガへ—線の魔術

2019年10月12日(土) — 2020年1月13日(月祝)

アール・ヌーヴォーを代表する芸術家アルフォンス・ミュシャ(1860-1939)。本展は、ミュシャが手がけた華やかなポスターのほか、ミュシャの作品から強い影響をうけた日本の明治期の文芸誌、1960年代を中心にアメリカ西海岸やロンドンで一大ムーブメントを巻き起こしたグラフィック・アート作品、日本のマンガ家やイラストレーターの作品などを展示する、これまでにない画期的なミュシャ展です。



アルフォンス・ミュシャ(挿紙)
1896年 カラーリトグラフ
ミュシャ財団蔵©Mucha Trust 2019

Kyoto Art for Tomorrow 2020
—京都府新鋭選抜展

2020年1月25日(土) — 2月9日(日)

新進作家による卓抜した創造性、技術を備えた作品を紹介します。

3階企画展

ICOM 京都大会開催記念
京の歴史をつなぐ

2019年8月29日(木) — 9月29日(日)

ICOM京都大会テーマ「文化をつなぐミュージアム-伝統を未来へ」に沿って、京都の文化遺産や景観がどんな歴史を経て、いかなる価値が見出され、現代に継承されてきたのかを紹介します。



平安京羅城門復元模型

京都文化プロジェクト関連事業
京都祇園祭

2020年3月24日(火) — 5月17日(日)

千年の都・京都。その都市としての精神を支えてきたのが祇園祭です。この展覧会では、山鉾を飾る舶来の希少な懸装品や華麗な装飾品の数々を紹介し、世界に名だたる祇園祭の全貌を示すとともに、山鉾に込められた物語やその歴史、そして山鉾の装飾美として結実した京都の技術と芸術の粋を一堂に集めて、都の人びとが心を寄せてきた祇園祭の本質に迫ります。



重要文化財 祇園会踏鉾飾毛織
公益財団法人踏鉾保存会蔵

	2019 3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	2020 1	2	3	4	
4F	北野天満宮 信仰と名宝		美を競う 肉筆浮世絵の世界			横山華山展		百花繚乱 ニッポン×ビジュツ展		みんなのミュシャ ミュシャからマンガへ—線の魔術				京都祇園祭	
3F								京の歴史をつなぐ							
2F	京都府内の学校所蔵 考古・歴史資料展2		太田喜二郎と藤井厚二			池大雅 洛陽三十三所4		文博界隈の近代建築と地域事業		道具と材料の職人譜 陽明文庫の名宝9		伊藤久三郎展 BEACON 2020		千總コレクション(仮称)	
	祇園祭—函谷鉾の名宝—			祇園祭—山鉾巡行の歴史と文化—			祇園祭—長刀鉾の名宝—		祇園祭—四条傘鉾の名宝—		雑祭り(雛人形名品展)				

2階総合展示室 京の至宝と文化

京都府内の学校所蔵
考古・歴史資料展2
—2019年4月21日(日)

2016年に続き、京都府内の学校が収集・研究・継承してきた考古・歴史関連資料を紹介します。本展ではとくに京丹後市の高校および京都市内の小学校・高校所在資料に注目します。



北白川に伝ふ風土記
1959年 山口書店刊

池大雅

2019年6月29日(土) — 8月25日(日)

18世紀の京都に生きた池大雅は、江戸時代を代表する文人画家の一人です。本展では、京都府が所蔵する池大雅美術館コレクションの中から選りすぐり、優れた書画作品や、大雅の人となりを示す貴重な資料をご紹介します。



池大雅 天産奇絶図巻 部分 寛延2年(1749)

洛陽三十三所4

2019年6月29日(土) — 8月25日(日)

かつて京都において、三十三の観音菩薩を巡礼するという信仰がありました。2005年に再興された観音霊場が所蔵する寺宝を展示します。



豊田秀吉朱印状 華堂行願寺蔵

辰野金吾没後100年
文博界隈の近代建築と地域事業
2019年8月31日(土) — 10月27日(日)

京都文化博物館界隈に多く立ち並ぶ近代建築。その魅力を引き出し、活用しようとする地域事業を紹介します。あわせて当館別館(旧日本銀行京都支店重要文化財)の設計者である辰野金吾の没後100年あたり、辰野が手掛けた日本銀行本店や東京駅などの関係機関と連携しながら、辰野の事績を振り返ります。



営業時の日本銀行京都支店外観

道具と材料の職人譜

2019年11月2日(土) — 12月22日(日)

古の美術工芸品や資料は、数々の伝統的な道具や材料で作られています。現代の我々が貴重な品々を後世に伝えていく上では、そうしたものを生産する職人の技術を受け継ぐことも大切な使命の一つです。本展では、書画を中心に文化財を支える様々な伝統材料や道具類、その職人たちの歴史的営みをご紹介します。



唐紙屏風 江戸時代(17世紀) 京都・勤修寺蔵

近衛家 王朝のみやび
陽明文庫の名宝9
2019年11月2日(土) — 2020年1月5日(日)

公家の名家、近衛家に伝わった平安時代以来の貴重な資料の中から、国宝「御堂関白記」を始めとする選りすぐりの名品を紹介します。



春日権現霊験記絵巻 巻第13 陽明文庫蔵

伊藤久三郎展

2020年1月4日(土) — 3月8日(日)

京都市に生まれ、一九三〇年協会や九堂会など先鋭的な芸術団体で活躍した伊藤久三郎(1906-1977)の詩的な世界を、同時代を生きた画家の作品と共に紹介します。



伊藤久三郎(山)1939年

BEACON 2020

2020年1月11日(土) — 3月8日(日)

現代美術のユニット KOSUGI+ANDO(小杉美穂子、安藤泰彦)と映像作家の伊藤高志、稲垣貴士、哲学者の吉岡洋によるメディア・インスタレーション作品「BEACON」シリーズを展示します。



BEACON プロジェクトチーム(BEACON 2010) 2010年

京のまつり

祇園祭 — 函谷鉾の名宝—
2019年4月6日(土) — 6月16日(日)

祇園祭で最初に人形稚児を搭載したのは函谷鉾で、2019年は人形稚児の嘉多丸が登場した天保10年(1839)からちょうど180年目となります。展覧会では、その函谷鉾の魅力をご紹介します。



函谷鉾人形稚児「嘉多丸」

祇園祭 — 山鉾巡行の歴史と文化—
2019年6月22日(土) — 8月4日(日)

この展覧会では、祇園祭の開催に合わせて、山鉾にまつわる古記録などを中心に、祇園祭を彩る町衆の文化について紹介します。



「祇園御堂会細記」

祇園祭 — 長刀鉾の名宝—
2019年8月10日(土) — 10月20日(日)

長刀鉾は前祭の山鉾巡行で常に先頭をゆく鉾です。長刀鉾には、その長い歴史と文化に裏打ちされた数々の品物が伝来しています。この展覧会では、長刀鉾が有する貴重な文物を紹介し、祇園祭の奥深さの一端に触れていただきます。



長刀鉾

祇園祭 — 四条傘鉾の名宝—
2019年10月26日(土) — 12月22日(日)

祇園祭に登場する山鉾の中でも特殊な傘の形状をもつのが四条傘鉾です。四条傘鉾の周囲に裏打ちされた数々の品物が伝来しています。この展覧会では、長刀鉾が有する貴重な文物を紹介し、祇園祭の奥深さの一端に触れていただきます。



四条傘鉾垂り「麗光舞扇図」(部分)

雑祭り(雛人形名品展)
2020年2月15日(土) — 4月5日(日)

京都府所蔵の雛人形から、選りすぐった名品をご紹介します。春の訪れを感じるひととき、ゆっくりとお楽しみください。



「雛人形(古今雛)江戸時代後期」

※年間スケジュールの情報については主催者の都合で変更になる場合があります。※2階総合展示は、期間中、展示替のため休室する場合があります。※各展覧会の詳細は当館HPでご確認ください。